

秋田県における小児股関節撮影での生殖線防護の実態調査

—アンケート報告—

秋田県診療放射線技師会 放射線安全管理委員会 ○千葉 大志(Chiba Taishi)

【はじめに】

本アンケートは、2022年に秋田県診療放射線技師会（以下、AART）における放射線安全管理委員会の企画として行なったものであり、第13回東北放射線医療技術学術大会ドーズコントロールにて報告を行なったので、その概要を報告する。

なお、本文の内容はアンケートから得られた特徴をまとめており、アンケートの全容はAARTのホームページに公開している (Fig.1)。

秋田県診療放射線技師会ホームページ>イベント・調査>「秋田県における小児股関節撮影での生殖線防護の実態調査」

URL: https://aart.jp/?page_id=169

【背景と目的】

2019年に米国医学物理学会 (AAPM)、米国放射線科専門医会 (ACR) から、小児の画像診断で日常的に行われている生殖線や胎児に対する防護を中止すべきとの声明が出された。さらに、2021年には米国放射線防護審議会 (NCRP) より腹部・骨盤のX線撮影で慣例的に実施されている生殖線防護の中止勧告が出された。これらを受けて、生殖線防護の必要性について学術的・社会的観点から議論するため日本放射線技術学会 (以下、JSRT) で検討班が設置された。当会においても独自の調査を行うことで、秋田県内における現在の生殖線防護に対する意識や現行の対応の特徴を把握し、県技師会として今後の生殖線防護の中止に向けてどのような施策をとることが有効かの指標とすることを目的とした。

アンケートではJSRT放射線防護部会 小児股関節撮影における生殖線防護検討班 小児股関節撮影における生殖線防護の実態調査¹⁾ (以下、JSRT報告) と比較をすることで全国と秋田県の特徴を比較した。



Fig.1 秋田県診療放射線技師会ホームページ

【方法】

記入方法: Googleフォーム、配布方法: AART会員メーリングリストおよび施設メーリングリスト、設問数: 13、回答期間: 令和4年8月1日-9月2日 (延長期間: 令和4年9月23日まで)、回答対象者: 1施設1回答 (代表者により)

【結果 (概要)】

回収数は17施設であり、公的医療機関が最も多かった。次に各設問の概要とJSRT報告と比較した際の違いを記載する。病床数: 100-299床群の回答が最も多くJSRT報告における小規模群にあっていた。使用装置: X-ray, TVの割合がJSRT報告より多かった。生殖線防護の実施状況: 同様であった。股関節撮影以外で生殖線防護を行う検査: 四肢X線撮影や胸部 (腹部) X線撮影が少ない印象であった。防護の実施 (不実施) 判断: 放射線科医・部門長による指示が少なかった。再撮影の現状や割合: 同様であった。再撮影の理由: おおよそ同様の傾向だが、比較としては患者体動が多かった。AAPMやACR声明の認知度: 知っているが多かった。声明を受けて生殖線防護の可否の検討: 検討しているが多かった。学会指針が示された際の生殖線防護継続の意思決定への影響: 同様の傾向だが、比較としてはより肯定的であった。

回収数は少ないが概ね秋田県の傾向を把握できた。病院規模の特性が全国と異なり、放射線科医の在籍や部門長権限が異なる可能性が示唆される。生殖線防護の実施状況は同様だが他検査では透視系の需要があった。再撮影の実態は概ね同様で存在した。JSRT報告とは周知時期が異なるが関心度は高く肯定的であった。

【おわりに】

シンポジウムを通し、診療放射線技師でも考えを変えるのに労力を要していること、他職種への理解も重要であること、それぞれの病院での草の根の対話が必要であることが示唆された。秋田県では関心度が高いことから、県内の好事例を取り上げることで、機運を持続的に高めていきたい。また、地域内での誤差による誤解を防止するため、クリ

ニックなどにも情報が届く施策を企画することが地方技師会の役割の一つである感じた。最後に、当会事業にご理解賜り、本アンケートへご協力いただきました皆様には厚く御礼申し上げます。

【参考文献】

- 1) 竹井泰孝, 江口佳孝, 川浦稚代, et al. : 放射線防護部会 小児股関節撮影における生殖腺防護検討班 小児股関節撮影における生殖腺防護の実態調査 結果報告. 日本放射線技術学会雑誌, 77(10), 1252-1254, 2021.